

ABOUT US & OUR VISION

生きづらさや孤独を解放し 人生と社会をリデザインする

ひきこもりUX会議とそのビジョン

「ひきこもりUX会議」は、不登校、ひきこもり、発達障がい、セクシュアル・マイノリティの当事者・経験者らで立ち上げたクリエイティブチームです。

ひきこもりをはじめ、人とかかわる困難さ、居場所のなさ、「ふつう」や「こうあるべき」と違うこと——さまざまな背景に起因する「生きづらさ」。わたしたちはそのすべてを「Unique eXperience (ユニーク・エクスペリエンス=固有の体験)」と捉えています。それを他者と共有しあうことでこれまでとはちがった価値を帯び、本人や誰かの生き方をポジティブに変えたり、こわばっていた思いや考え方をやさしく氷解させてくれる。個人の「UX」はそんな可能性に満ちています。

生きづらさを通じて、得たもの、失ったもの。それを発信し、誰かと共有し、フラットなつながりをひろげ、しなやかに、おだやかに生き抜いていく方法を提案したい。

既成のシステムになじまない人をお仕着せの「ふつう」へと変えようとするのではなく、また「就労」や「自立」へと性急に駆り立てるのではなく、あなたやわたしたちが「ほんとうに大切にしたいもの」を見つけたい。

世のなかのひずみや嘘に耐えがたく身を潜めているひとたちの声があつまり、少しずつ風向きを変え「誰もが生きやすい社会」へとつながっていくと信じています。

そんな思いのもと、わたしたちは風上から風下への「支援」とは一線を画したさまざまなイベント、調査、制作物やメディアを通じて、「UX=固有の体験」を出会わせ、発信・表現し、一人ひとりが自分の人生を自分でデザインできる社会を目指して活動しています。

わたしたちは独りではありません。あなたのかげがえのない「UX」を持ち寄って、新たな未来像をともに描き出しましょう。

DONATION

ご寄付のお願い

一般社団法人ひきこもりUX会議では継続して活動をするために寄付金を募集しています。寄付金は以下のように役立てます。

- ① ひきこもりUX女子会等の「居場所」「当事者会」の運営費
- ② 当事者、家族、支援者が集うイベントの開催費
- ③ ブックレットや白書等、ひきこもりの理解のための販売物の制作費
- ④ ひきこもりや生きづらさの当事者の実態把握のための調査費用
- ⑤ ウェブサイトの運営・維持費

〈みなさまのご支援を、よろしくお願いいたします〉

Aサポーター	1,000円
Bサポーター	3,000円
Cサポーター	5,000円
Dサポーター	10,000円
Eサポーター	100,000円

ゆうちょ銀行 店番098
普通口座 1170003
名義：シャ) ヒキコモリユーエックスカイギ

三井住友銀行 上大岡支店 (566)
普通口座 7322067
名義：イツバンシヤダンホウジン
ヒキコモリユーエックスカイギ

Original Booklet



ひきこもりUX会議オリジナルブックレット
オンラインショップにて好評販売中!!

オンラインショップBASE「ひきこもりUX会議ショップ」
<https://uxkaigi.base.shop>



当事者会連携・講演依頼ご相談ください

居場所づくりを実施したい自治体の皆さまとの連携や、ひきこもりUX会議理事への講演依頼なども受付けております。お問い合わせはこちらまで >> info@uxkaigi.jp

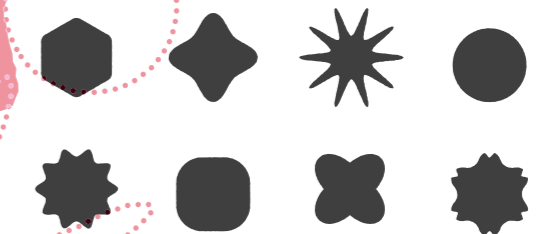
✉ info@uxkaigi.jp 📄 <http://blog.livedoor.jp/uxkaigi>
📍 @uxkaigi 📺 <https://www.facebook.com/uxkaigi>

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

PHOTO: 梶浦崇志、河野桃子

生きづらさや孤独を解放し 人生と社会をリデザインする

ひきこもり UX会議



ACTION わたしたちの活動

生きづらさを抱えた当事者・経験者同士、また家族や支援に携わる人や企業、自治体など、立場や背景を超えて交わることのできる機会をつくりまします。

場をつくる

当事者会から、どんな人でも参加できるものまで、「UX」を持ち寄るさまざまなイベントや集まりを企画します。

調査と発信

ひきこもりや生きづらさを抱える当事者向けの実態調査を行います。調査を通じて、まだ可視化されていない当事者の存在や、声を広く発信します。

語る

メンバー自身や当事者の「UX=固有の体験」、有識者の知見、ご家族や支援者の大切な声を文字や言葉にします。

2014

ひきこもり
UX会議

ひきこもりUX会議

開催地 東京ウィメンズプラザ 参加人数 320名

「当事者たちによる実用的（リアル）な支援の提案」をコンセプトに、8人の当事者・経験者がプレゼンテーションを行った。



2015

Hikikomori
Oshare Cafe

ひきこもり×おしゃれカフェ

開催地 男女共同参画センター横浜南

参加人数 計4回実施、のべ80名



2016

Hikikomori
UX
Festival

ひきこもりUXフェス

開催地 大田区産業プラザPiO 参加人数 400名

「生存戦略」をメインテーマにしたトークイベント、ブース出展、対話の場所を同一会場内にて企画。参加者は当事者、家族、支援者など幅広い立場から集まった。



ひきこもりUX女子会

「女性が安心して集まることのできる場」を目的に、ひきこもり等の生きづらさを抱える女性自認の方を対象に2016年開始。2019年2月までに全国28都市で関連企画含め80回以上開催し、のべ2,800名が参加。



2017



ひきこもりUX女子会 全国キャラバン2017

ひきこもり女子会のニーズの高まりを受けて全国10都市にて実施。ここから各地の支援団体や行政機関との連携の実現や、当事者らによる自主開催が始まった。
※「日本財団2017年度助成事業」として実施

ブックレット『シリーズ 私たちの生存戦略 「ひきこもり女子会」』発行

場づくりの経験がなくても女子会を立ち上げられるような具体的なノウハウや、参加者の漫画エッセイ、また精神科医の斎藤環氏のロングインタビューも収録。
※男女共同参画センター横浜南の「2017年度公募型男女共同参画事業」として制作

女性のひきこもり・生きづらさについての 実態調査2017

実施期間 2017年9月～12月

日本で初めての「生きづらさを抱える女性」を対象にした実態調査を行う。ひきこもりUX女子会全国キャラバンと連動することで、女子会という「場」から調査へと当事者のリアルな声を繋げた。

※「日本財団2017年度助成事業」として実施

2018

HIKIKOMORI
UX
Vol.2

ひきこもりUXフェスvol.2

開催地 東京ウィメンズプラザ 参加人数 400名

それぞれのUX=固有の体験を集める場として、当事者、家族、支援者、それぞれの「当事者会」を開催。また、実態調査の結果発表を兼ねて行政職員や社会学者、精神科医などが「安心できる居場所」について講演。

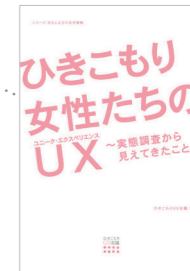
※「日本財団2017年度助成事業」として実施



ブックレット『シリーズ 私たちの生存戦略 「ひきこもり女性たちのUX ～実態調査から見えてきたこと～」』発行

調査結果の概要から、精神科医・斎藤環氏らが登壇した「ひきこもりUXフェスVOL.2」の講演録、UX会議理事による書き下ろしエッセイなども掲載。新しいひきこもり支援のかたちや、誰もが生きやすい社会づくりへの提案をした。

※「日本財団2017年度助成事業」として制作



ひきこもりUX女子会 全国キャラバン2018

前年度のキャラバンの反響を受け、連続開催。2017年に未開催だった地域を含め、全国13都市で実施した。

※「日本財団2018年度助成事業」として実施



2019

HIKIKOMORI
U X
CAMP

ひきこもりUX CAMP

開催地 国立オリンピック記念青少年総合センター

「支援」や「場づくり」をリデザインすることをテーマに、当事者・経験者と支援者/家族が半々の約40名で、一泊二日かけ安心できる場づくりや、支援についてのワークショップを行った。

※「日本財団2018年度助成事業」として実施



ひきこもりUXセクマイ会

LGBTQなどの多様な性を生きるセクシュアル・マイノリティ当事者で、ひきこもり等の生きづらさを抱える方を対象に実施。ダブルマイノリティの存在を浮かび上がらせている。

※「日本財団2018年度助成事業」として実施

ひきこもりママ会

東京・清瀬市男女共同参画センターの主催で、子育て中または子育て経験のある、ひきこもり等の生きづらさを抱える女性を対象に実施。UX会議は企画協力を担当。

